

～1歳以上のお子様がいる保護者の方へ～

水痘(水ぼうそう)予防接種のお知らせ

○対象年齢： 1歳から3歳のお誕生日前日まで
(生後12月から生後36月に至るまでの間の者)

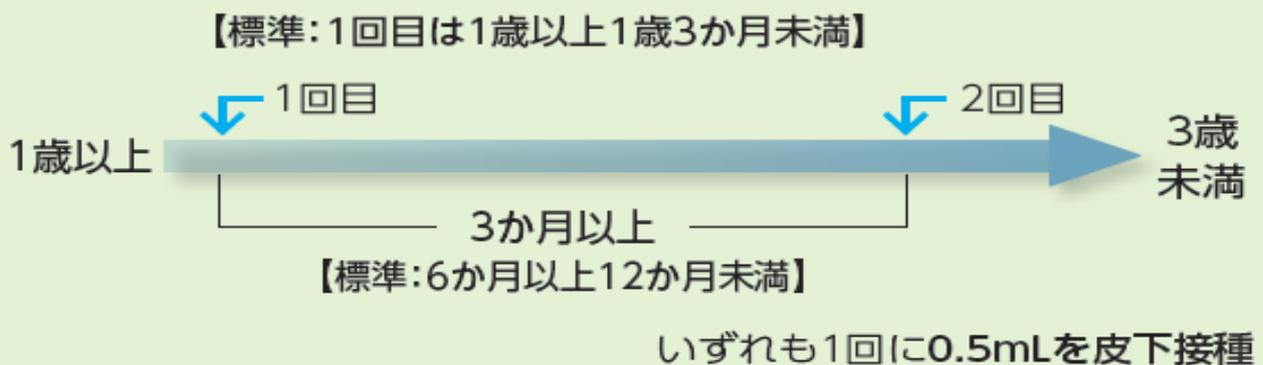
○接種回数： 2回

○接種費用： 全額公費負担 (無料)

○接種場所： 別紙の**市内指定医療機関** または
本島内の地区医師会会員医療機関
(※接種前に予約を行い、必ず親子(母子)健康手帳を持参して下さい。)



■水痘(水ぼうそう)予防接種 接種スケジュール



※既に水痘(水ぼうそう)にかかったことがあるお子様は、定期接種の対象外となります。

お問い合わせ先

浦添市保健相談センター(健康づくり課 予防係) TEL:098-875-2100

水痘（水ぼうそう）ってどんな病気？

水痘（水ぼうそう）は水痘帯状疱疹ウイルスの空気感染等によって引き起こされる感染力の非常に強い病気です。潜伏期間は13～17日間で、発熱、強いかゆみを伴う発疹が主な症状です。全身に不ぞろいの大きさの紅斑（赤み）ができ、そのあと水疱になり、最後にはかさぶたとなって治っていきます。発疹は短時間でかさぶたになりますが、数日にわたり次々と新しい発疹が出現するため、すべての発疹が痂皮化するまでには平均7-10日程度かかります。40℃以上の高熱を発する場合もあり、その際に熱性けいれんを起こすこともあります。学校保健安全法では、すべての発疹が痂皮化（かさぶたになる）まで出席停止となります。

合併症としては、かゆみで発疹をひっかくことによる皮膚の細菌感染や、脳炎、肺炎、気管支炎、血小板減少性紫斑病などがあります。急性白血病などのハイリスク者がかかった場合、重症化しやすく、死亡することもあります。年少児のうちは稀ですが、年長児や大人の方は重症化する場合があります。症状が治まった後も、ウイルスは神経節に留まるため、免疫力が低くなった時に帯状疱疹として再び症状が出る場合があります。

また、妊婦さんが妊娠初期に水痘にかかると、母体死亡率は13-14%といわれていて、胎児の先天性水痘症候群（四肢低形成、皮膚の異常、眼球異常、小頭症など）の可能性があるため、周囲の人がきちんと免疫をつける必要があります。



水ぼうそうにかかったときの出席停止期間は1週間程度を見込んでください！！

水痘（水ぼうそう）ワクチンについて

水痘（水ぼうそう）は1歳～2歳の間にかかる可能性が高いため、1歳になったらなるべく早く1回目の水痘ワクチン接種を受けましょう。1回の接種で90%以上の方が十分な免疫を獲得するといわれていて、たとえ接種後に水痘にかかってしまった場合も重症化することを防ぐことができます。

さらに2回目の接種で軽症なものを含め、ほとんどの水痘にかかることを防ぐことができます。

なお、既に水痘にかかったことのあるお子様は定期接種の対象外となりますので、接種前に必ず親子健康手帳等でお子様の罹患履歴をご確認ください。



水痘ワクチンの副反応について

副反応の主なものは、注射部位の局所反応（赤み、しこり、腫れ）で、次いで発熱や発疹があります。通常は数日中におさまります。発現率はそれぞれ局所反応（約3.1%）、発熱（約2.8%）、発疹（1.8%）となっています。また、重い副反応として非常にまれにはありますが、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病の報告があります。その他、急性白血病などのハイリスクの方では、接種後に帯状疱疹がみられることがありますが、水ぼうそうに自然感染した場合に比べて同じ、あるいは低い発現率といわれています。接種後、高熱などの異常がみられた場合は、早めに医師の診療を受けましょう。

